

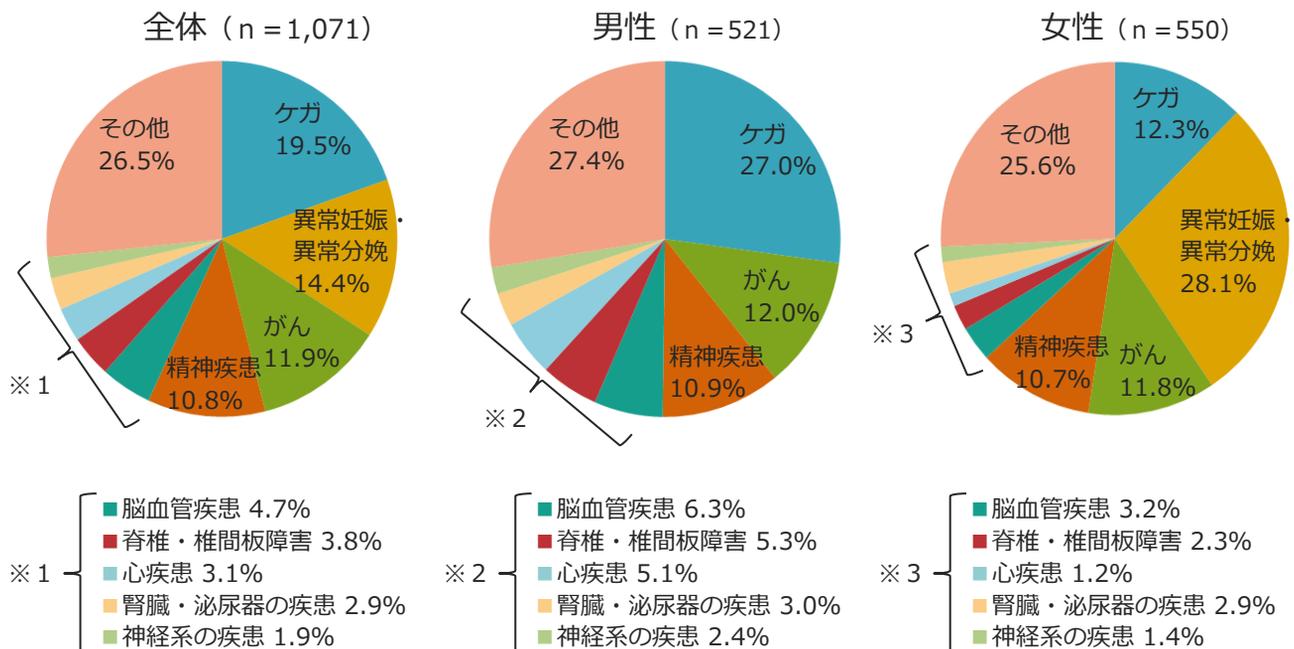
## 病気やケガで30日以上入院・在宅療養を経験された1,071名の声

メディケア生命保険株式会社（本社：東京都江東区、取締役社長：野村洋一）は、継続入院・在宅療養収入サポート特約の発売にあたって、病気やケガで30日以上入院・在宅療養※を経験された全国の1,071名に、療養の実態に関するアンケート調査を実施いたしました。

※入院および退院後の在宅療養の合計期間が30日以上

### 調査結果① 入院・在宅療養の原因

- ・全体ではケガが19.5%で最も高く、次いで異常妊娠・異常分娩14.4%、がん11.9%、精神疾患10.8%が上位を占めます。
- ・男性ではケガが27.0%で最も高く、次いでがん12.0%、精神疾患10.9%、脳血管疾患6.3%が上位を占めます。
- ・女性では異常妊娠・異常分娩が28.1%で最も高く、次いでケガ12.3%、がん11.8%、精神疾患10.7%が上位を占めます。



### 本件に関するお問い合わせ先

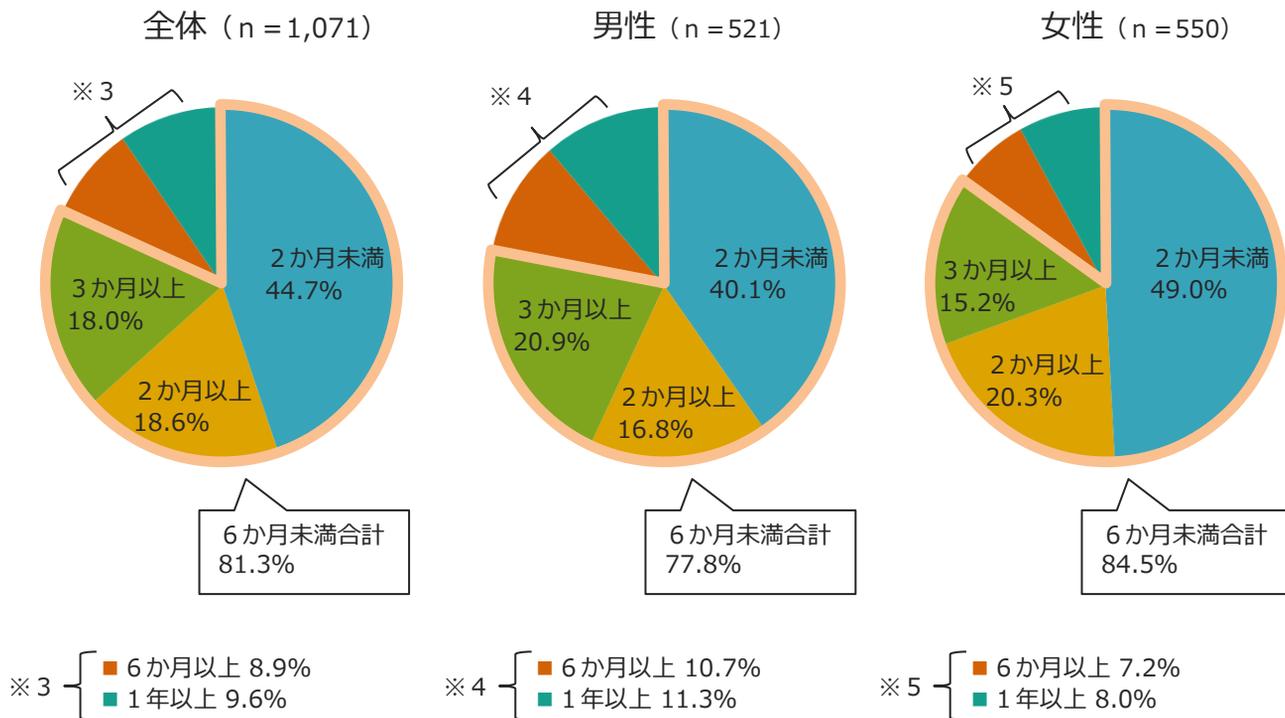
【お客さま】 コールセンター 0120-315-056  
【報道関係者さま】 経営管理部 03-5621-3367

## 調査結果② 入院・在宅療養の期間※1

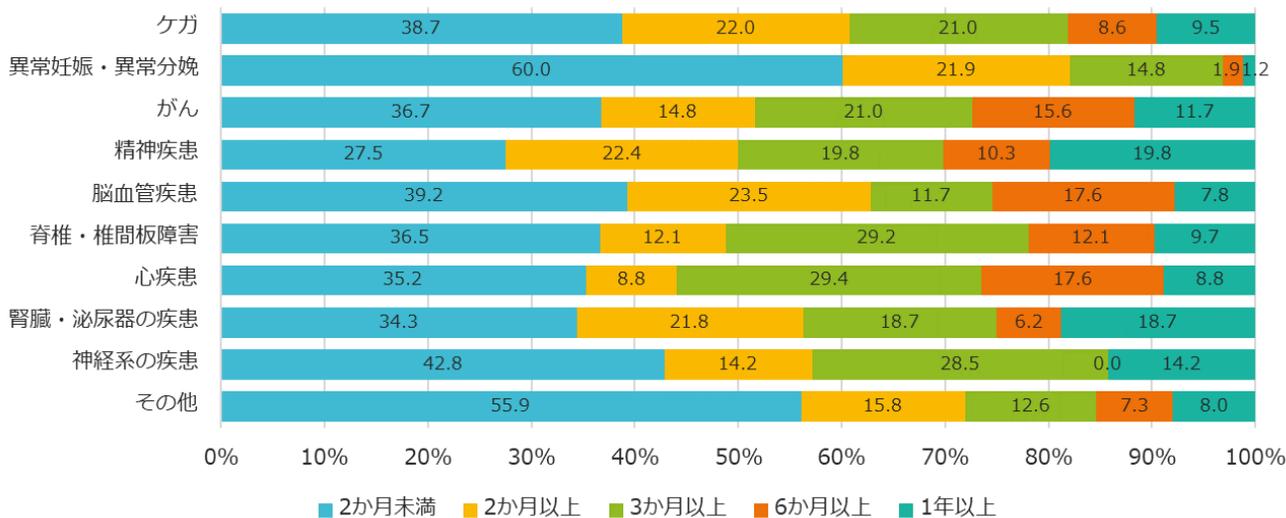
- ・全体では2か月未満が44.7%で、6か月未満合計で80%を超えます。
- ・原因別にみると、2か月未満の割合が最も高いのは異常妊娠・異常分娩（60.0%）で、6か月以上の割合が最も高いのは精神疾患（30.1%※2）です。

※1 入院および退院後の在宅療養の合計期間。在宅療養がない場合は入院のみの期間

※2 6か月以上（10.3%）と1年以上（19.8%）の合計



## 原因別 (n = 1,071)

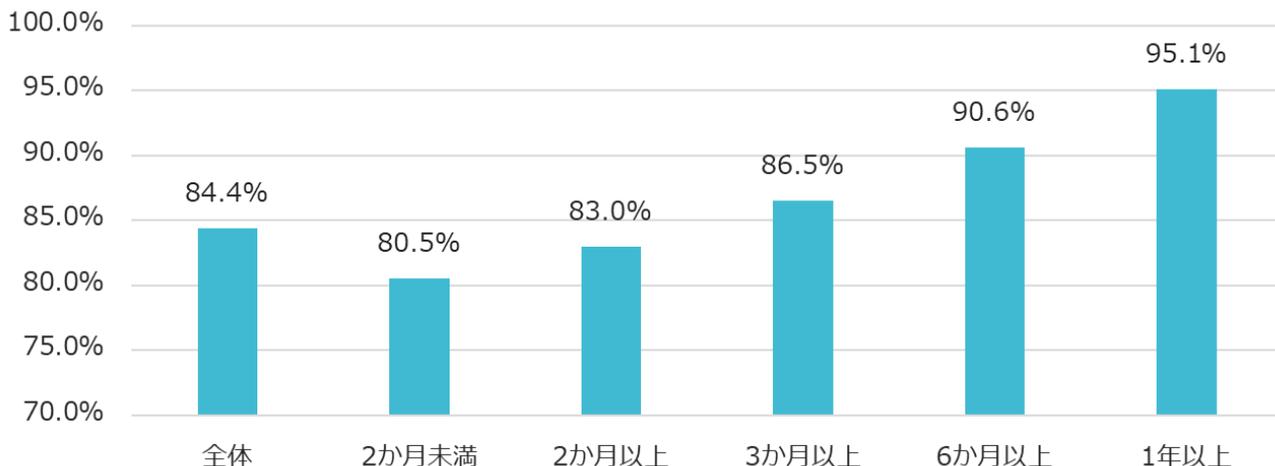


### 調査結果③ 在宅療養の有無

- ・入院・在宅療養の期間※別に在宅療養の経験率をみると、全体では84.4%、2か月未満でも80%を超えます。

※入院および退院後の在宅療養の合計期間。在宅療養がない場合は入院のみの期間

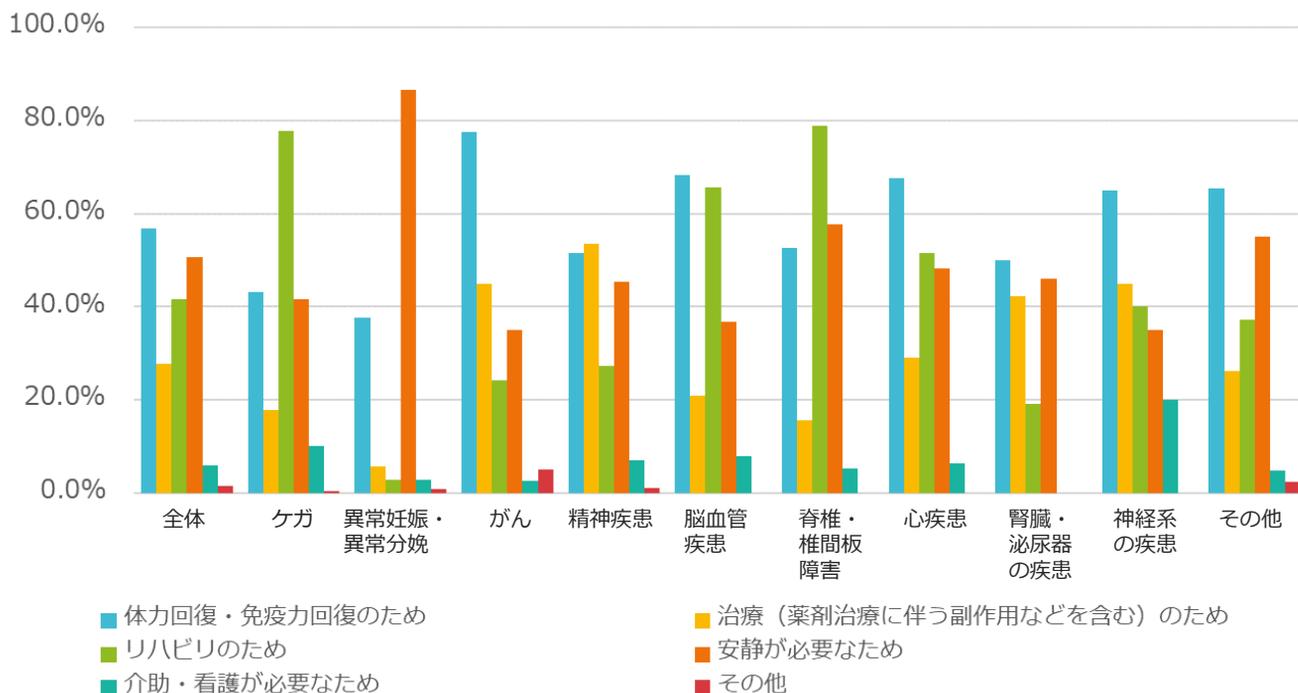
全体 (n = 1,071)



### 調査結果④ 医師から在宅療養が必要と言われた理由（複数回答）

- ・ケガ、脳血管疾患、脊椎・椎間板障害ではリハビリが多く、異常妊娠・異常分娩では安静が顕著に多いなど、在宅療養が必要な理由は傷病ごとに異なるようです。

在宅療養経験者 (n = 904)

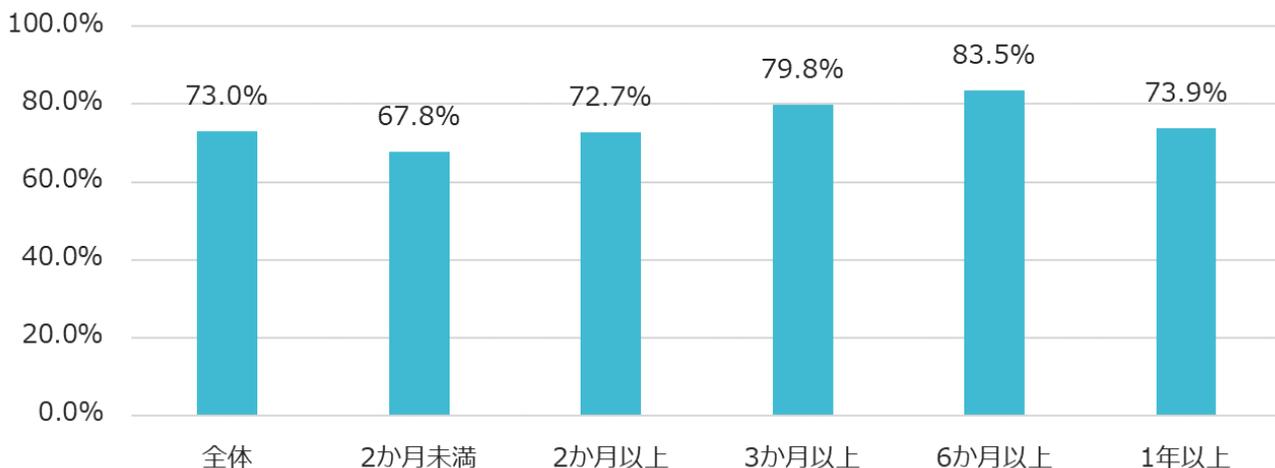


## 調査結果⑤ 入院・在宅療養中の収入の減少（専業主婦・主夫を除く）

- 入院・在宅療養の期間※1別に収入が減少した期間があると回答された方の割合をみると、2か月未満などの比較的短い期間でも収入が減少していることがわかります。

※1 入院および退院後の在宅療養の合計期間。在宅療養がない場合は入院のみの期間

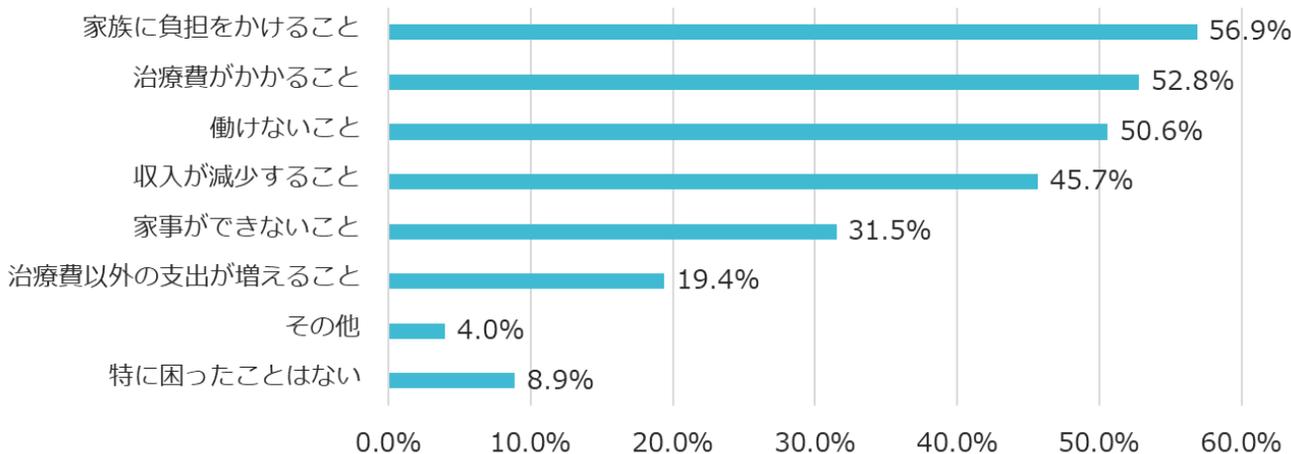
全体（n = 930）



## 調査結果⑥ 入院・在宅療養中に困ったこと（複数回答）

- 家族に負担をかけることが56.9%で最も高く、次いで治療費がかかること52.8%、働けないこと50.6%、収入が減少すること45.7%が上位を占めます。

全体（n = 1,071）



### <調査概要>

調査名称 メディケア生命「2022年入院・在宅療養に関するアンケート調査」

調査対象 マクロミルのモニター会員を母集団とする過去3年以内に30日以上入院・在宅療養※2を経験した男女(20歳～59歳)

調査時期 2022年6月6日～2022年6月13日 調査方法 インターネットリサーチ

調査地域 全国 有効回答数 1,071名 調査委託先 株式会社マクロミル

※2 入院および退院後の在宅療養の合計期間。在宅療養がない場合は入院のみの期間

\* 在宅療養とは医師により自宅等での療養が必要といわれた状態をいいます。ただし、療養中であっても仕事をされている場合は除きます。

\* 記載の数値は小数点第2位以下を切り捨てているため、合計が100%とならない場合があります。

\* 上記アンケート対象の各傷病と継続入院・在宅療養収入サポート特約の保障範囲は異なる場合があります。